

科目区分：国際理解教育コース，授業科目名：日本語教授法

担当教員：菅野 真紀子・林 智子

「日本語教授法」授業評価報告

菅野 真紀子・林 智子（非常勤講師）

1. 授業の概要

(1) 目的

日本語を外国語としてとらえ、その基礎理論、基本的な教授法などを理解し、その現状を把握する。

(2) 到達目標

日本語教育の担う役割を把握し、それを実践するための基礎的知識を身につける。

(3) 授業の概要

日本語教育と国語教育の違い、その違いから生じる文法の扱い方の違いを考える。どのように教えるかの観点から、主要な教授法を取り上げ、その基礎理論を学び、日本語教授法としての実際をビデオ教材等で見る。誰に教えるかの観点から、学習者のレベル、OPI（口頭能力テスト）による評価法、レベル別、対象別指導法にふれる。海外・日本・愛媛・愛媛大学における日本語教育の実情についても把握する。さらに項目別指導法については、教師による模擬授業で、実際の授業におけるいくつかの教授法の応用法、授業の流れを学ぶ。その後、出された課題について、4つのグループに分かれてワークショップ方式で理解を深め、模擬レッスンの教案を考えた後、各グループによる模擬レッスンを実施、役割分担し、それぞれの立場から自らのグループの発表についての反省、他のグループの発表に対する感想・評価を発表する。最後に教師からのコメントを聞く。最終回に筆記試験。

2. 学生の評価

授業終了後実施したアンケートの結果を以下に示す。（17名回収）

(1) 以下の授業内容のうち、特に興味を持ったもの（複数回答可）

日本語教授法 9名 ・ 日本語文法 5名
コースデザイン 6名 ・ OPI 5名
海外での日本語教育 7名
レベル別指導法 6名 ・ 対象別指導法 5名
項目別指導法 5名 ・ ワークショップ 2名
日本、愛媛における日本語教育の実情 2名
模擬授業 7名 ・ 全てに興味をもてた 3名

(2) 以下の内容のうち興味を持たなかったもの、必要ないと思ったもの（複数回答可）

コースデザイン 2名 ・ ワークショップ 2名
海外での日本語教育 1名 ・ 項目別指導 1名
日本、愛媛における日本語教育の実情 1名

(3) 毎回書いた学習記録について

・ 毎回の内容が確認できてよかった 14名
・ 毎回のコメントが嬉しかった 3名
・ 時間が足りず大変だった 2名

(4) 授業を受ける前に期待していたこと

外国人に日本語を教える方法 7名
実践的な教授法 2名 ・ 留学生との交流 1名

(5) 期待に沿う授業だったか

はい 13名 ・ 中間 2名 ・ いいえ 2名

(6) 受講して詳しく知りたいと思ったこと

・ 実際の授業の様子・教え方 5名
・ 留学生が日本語を身につける過程 2名
・ 模擬授業 2名 ・ 海外での現状 3名

(7) 授業にはなかったが、知りたかったこと

・ 実際の海外での現場や教師の需要 2名
・ より具体的な教授法 2名

(8) グループ活動について

他の人の意見が聞けた、刺激を受けたなど肯定的意見が 15名いたが、すべてになくても良いという意見が 2名あった。

(9) その他意見や感想

・ 日本語教育により興味を持った
・ もっと幅広く本格的に学べる環境を整えて欲しい
・ 楽しく、とても勉強になった
・ J-support に登録して活動したい

3. 自己評価

できるだけ体験型の授業を心がけたが概ね満足してもらえたと思う。学生の熱心な態度に教えがいを感じた。留学生との交流・実践を期待していた学生がいたが、それは来期の日本語教育実践の授業にお任せしたい。